

法学部

瀧澤 純先生推薦

『勉強法が変わる本

—心理学からのアドバイス』

市川 伸一著  
(岩波書店)

勉強ができる人とできない人との差は、「勉強のやり方」から生まれていることを、この本は教えてくれます。本で紹介されている問題から考えてみましょう。

【問題A】 $20\text{ m}^2$ は何 $\text{cm}^2$ か、答えなさい。

この問題Aをいきなり出題されると、意外に多くの人が間違えます。誤答の例は、「 $400\text{ cm}^2$ 」「 $2,000\text{ cm}^2$ 」「 $4,000\text{ cm}^2$ 」などです。しかし、次のように順を追って解けば、どうなるでしょうか。

【問題1】 $1\text{ m}$ は何 $\text{cm}$ か、答えなさい。

【問題2】 $1\text{ m}^2$ は何 $\text{cm}^2$ か、答えなさい。

【問題A】 $20\text{ m}^2$ は何 $\text{cm}^2$ か、答えなさい。

$1\text{ m}$ は $100\text{ cm}$ です。 $1\text{ m}^2$ は $10,000\text{ cm}^2$ です。よって、問題Aの正解は、 $200,000\text{ cm}^2$ です。問題1や問題2で基本を確認してから問題Aに臨めば、正解にたどり着く人は増えます。

この本によれば、ダメな勉強法のひとつが、「誤答の原因を分析できないこと」です。問題Aで間違えた人は、誤答の原因を分析できるでしょうか。「 $1\text{ m}$ は $100\text{ cm}$ 」という定義を覚えていなかったのか、「 $1\text{ m}^2$ は一辺が $1\text{ m}$ の四角形の面積である」を間違えているのか、「 $20\text{ m}^2$ の一辺は何 $\text{cm}^2$ か」で思い違いをしているのか、それとも、解き方の工夫が足りなかったのか……。

自分の誤答の原因をしっかりと分析できない人は、次に問題を解くときにまた間違えてしまいます。そして、一つ一つの問題でついた小さな差が積み重なれば、大学の定期試験、就職活動でのSPI、公務員試験など、重要な場面では大きな差になります。

さて、次の問題を解いてみましょう。問題Aで間違えた人も、誤答の原因を分析できていれば、解けるはずです。解けない人は、勉強のやり方を見直してみませんか？

【問題B】 $20\text{ km}^2$ は何 $\text{m}^2$ か、答えなさい。